

「知らないことを、知りました」

中野あゆみ

素晴らしい活動をされてきたのだなあと改めて感じています。
なにも知らなくて、ごめんなさいという気持ちです。
私のできることは何だろうと考えています。
まったく未知の世界の話を書き、愕然としています。

「熊本、赤ちゃんポスト、困ったときの駆け込み寺」程度の認識でした。
お恥ずかしい限りです。

話を聞けば聞くほど、根深い課題が山積しているとも感じました。

お母さんがどんな事情であれ、子どもを産むことは命がけです。
赤ちゃんポストがない社会も希望ですが、現実には虐待や殺人事件、嬰兒遺棄など事件は絶えません。

あのような事件のニュースを見るたびに、胸が打たれてしまい、あえて避けてきた自分がありました。

自分事としたらどうしようかとずっと引っかかってしまいました。自分が実親に育てられたのが普通？ふつうは何だ？とも思いました。
日本でもっと知ってほしい、他人事ではないと強く思っています。

困ったときに「助けて」と言える社会であってほしいと思います。
本当に人の気持ちに余裕がない社会です。
隣近所もわかりませんし、いつも経済が最優先の社会になっています。
まずは自分という視点も大事ですが、ちょっと周りに手を差し伸べる余裕と気持ちをもっていきたいと思います。

「赤ちゃんポスト」の名前やあり方ももっと議論があってもいいと思います。
単に数を増やせばいいとも思えません。でも、困ったときに、誰かに委ねることができることは大事と思いました。

こどもが健やかに、安全に暮らせて、いろいろなファミリーの形があってもいいのだ。
「ゆりかご」に最初に預けられ、いま、さわやかな青年に成長なさった宮地さんの写真と記事を見て思いました。